

第二次すみだ環境の共創プラン 令和3年度重点プロジェクト進捗状況評価（概要版）

【重点プロジェクト1】エコライフすみだの推進

目的

墨田区の温室効果ガス排出量は、家庭部門及び業務部門からの排出が多く占めている。そのため、家庭や事業所における自主的な省エネルギー活動の底上げを図り、区域全体で積極的に地球温暖化対策を推進していくことを目的とする。

活動指標

指標（1）	基準値 2000年度 (H12)	前年度実績 2018年度 (H30)	最新年度実績値 2019年度 (R1)	中間目標値 2020年度 (R2)	最終目標値 2030年度 (R12)
区民1人あたりの温室効果ガス排出量	5.7t-CO ₂	4.4t-CO ₂	4.3t-CO ₂	3.8t-CO ₂	3.1t-CO ₂
【参考】区域における温室効果ガス排出量	126.5万t-CO ₂	120.6万t-CO ₂	117.1万t-CO ₂	101万t-CO ₂	88万t-CO ₂
【参考】区域におけるエネルギー消費量	17,187 TJ	11,882 TJ	11,749 TJ	12,800 TJ	10,600 TJ
【参考】CO ₂ 排出量 (産業部門・民生部門)		産)16.8万t-CO ₂ 民)69.3万t-CO ₂	産)15.7万t-CO ₂ 民)66.9万t-CO ₂		

指標（2）	前年度実績値 2020年度 (R2)	最新年度実績値 2021年度 (R3)	中間目標値 2020年度 (R2)	最終目標値 2025年度 (R7)
太陽光発電システム、太陽熱利用システムの導入（墨田区地球温暖化防止設備導入助成制度）で削減できたCO ₂ 排出量（累計）	1,222t-CO ₂	1,249t-CO ₂	1,315t-CO ₂	1,600t-CO ₂
【参考】太陽光発電システム申請件数	9件	17件		

実績

【指標(1) 区民1人あたりの温室効果ガス排出量】

2019（令和元）年度は、約4.3t-CO₂、前年度から約0.1t-CO₂減少。温室効果ガス排出量全体では、基準年度比で9.4t-CO₂(△7.4%)、前年度比マイナス3.5t-CO₂(△2.9%)と微減傾向

【指標(2) 太陽光発電システム、太陽熱利用システムの導入で削減できたCO₂排出量（累計）】

申請件数は17件で昨年度（令和2年度）より8件増加。温室効果ガス削減量は累計で1,249t-CO₂

評価

【指標(1) 区民1人あたりの温室効果ガス排出量】

これまでの温室効果ガス排出量の状況から、2020(令和2)年度の中間目標値の達成に向けては、引き続きエネルギー消費量の削減が求められる状況にある。しかしながら、エネルギー消費量は、区民人口が増加しているものの、減少傾向にあり、既に中間目標値は達成している。これは区民の節電の取組とその定着、さらに省エネ設備・機器の普及等によりエネルギー消費量が減少しているものと考察している。

【指標(2) 太陽光発電システム、太陽熱利用システムの導入で削減できたCO₂排出量（累計）】

太陽光発電システムにより削減されたCO₂排出量は累計で1,249t-CO₂となり、中間目標値の1,315t-CO₂を上回ることはできなかった。太陽光発電システムの普及が進まない要因としては、マンション等の集合住宅の増加や本区の特徴である住宅密集地域による設置場所の課題や費用面での理由が考えられる。

進捗状況評価

B

(進捗状況評価区分)
A：順調に計画どおり進行している
B：課題はあるもののほぼ順調に進行している
C：課題が多く、目標達成には困難が予想される

今後の計画

区としては、エネルギー消費量削減の取組をさらに推進していくことに重点を置き、温室効果ガス排出量の削減を目指していく。また、2020(令和4)年3月に策定した「すみだ環境の共創プラン(中間改定)」においては、2050年のゼロカーボンに向けた取組を計画している。本区の温室効果ガスの状況は民生部門(家庭・業務)からの排出が全体の約6割を占めていることから民生部門の温室効果ガス削減に重点を置き、本プランにある取組の着実な推進や強化策の検討及び国や都と連携した取組も引き続き推進していく。

【重点プロジェクト2】緑感あふれる空間の創造

目的

まちなか緑化（緑と花のまちづくり推進地域制度）による、まちなかの緑、緑のカーテン、建築物の屋上や壁面の立体緑化など、多彩な緑を区民・事業者・区等の連携により創出し、地域の緑感を高め、緑を身近に感じられる空間を創造していくことを目的とする。

活動指標

指標	前年度実績値 2020年度 (R2)	最新年度実績値 2021年度 (R3)	中間目標値 2020年度 (R2)	最終目標値 2025年度 (R7)
まちなか緑化（緑と花のまちづくり推進地域制度）の活動地域数	20地域	23地域	16地域	22地域
【参考】緑化指導により整備された緑地面積（申請件数）	10,479.08㎡ (164件)	8,180.34㎡ (138件)		
【参考】緑被率	10.7%（※）	10.7%（※）	12.20%	13.00%

※ 10年に一度程度実施している「墨田区緑と生物の現況調査」による平成30年度の緑被率

実績

まちなか緑化（緑と花のまちづくり推進地域制度）の活動地域数は、前年度と比べて3地域増加した。

評価

まちなか緑化は、前年度と比べて増加し、中間目標値も達成できた。区民からは、まちなか緑化を実施したいという相談が引き続き寄せられており、当事業のニーズの高さを感じている。

進捗状況評価

A

(進捗状況評価区分)
A：順調に計画どおり進行している
B：課題はあるもののほぼ順調に進行している
C：課題が多く、目標達成には困難が予想される

今後の計画

緑の満足度の向上や、うるおいのあるまちづくりを目指し、既存地域の活動継続及び新規実施地域の募集を図りながら、引き続き、まちなか緑化を推進していく。

【重点プロジェクト3】ごみ減量化の推進

目的

3Rの取組をさらに進展させるため、リサイクルよりも優先順位が高い、ごみの発生抑制（リデュース）と再使用（リユース）に重点を置き、より一層のごみの減量を図ることを目的とする。

活動指標

指標	前年度実績値 2020年度 (R2)	最新年度実績値 2021年度 (R3)	中間目標値 2020年度 (R2)	最終目標値 2025年度 (R7)
区民1人1日あたりごみ排出量	551g	536g	520g以下	515g以下
【参考】ごみの発生量	73,421t	67,317t		
【参考】資源化率 (ごみの資源量)	19.3% (13,277t)	19.9% (13,363t)	23.0%以上	25.0%以上

実績

区民1人1日あたりのごみ排出量は、536gとなり、前年度と比べて15g減少した。また、資源化率は、19.9%となり、前年度と比べて0.6%増加した。

評価

新型コロナウイルス感染症の流行により増加したごみ量（可燃ごみ、不燃ごみ）は減少した。また、資源物の回収量は、増加した。区民1人1日あたりごみ排出量については、前年度と比べて、可燃ごみ、不燃ごみのごみ量が減少したため、中間目標の達成には至っていないが、最終目標数値に近づいている。

また、資源化率については、前年度と比べて、ごみ総量（可燃・不燃・粗大ごみ、資源物）に対する資源物の割合が上昇したため改善した。現在も、コロナ禍ではあるが、ごみの排出量に関する状況は、新型コロナウイルス感染症流行前の傾向に戻っている。

進捗状況評価

B
(進捗状況評価区分)
A：順調に計画どおり進行している
B：課題はあるもののほぼ順調に進行している
C：課題が多く、目標達成には困難が予想される

今後の計画

令和3年4月に策定した墨田区一般廃棄物処理基本計画（第4次計画）では、不要物の発生そのものを減らすことを目的とし、3Rの中でも優先度の高い2Rの取組を中心とした施策を盛り込んでいる。

今後は、事業者と連携したリユース事業の強化、廃プラスチックの再資源化及び食品ロス削減に関する検討を進め、更なる廃棄物の減量及び循環型社会の実現をめざしていく。

【重点プロジェクト4】ヒートアイランド対策の推進

目的

地表面や屋上の緑化、区道の遮熱・保水性舗装の拡大や、まちかどクールスポット設置の呼びかけなど、ヒートアイランド現象の緩和に向けた取組を推進し、都市部のヒートアイランド現象の緩和に寄与することを目的とする。

活動指標

指標	前年度実績値 2020年度 (R2)	最新年度実績値 2021年度 (R3)	中間目標値 2020年度 (R2)	最終目標値 2025年度 (R7)
住宅・事業所が設置した緑のカーテンの面積	445㎡	311㎡	350㎡	420㎡
緑のカーテンモデル設置施設数	25施設	33施設	30施設	35施設
【参考】緑化指導により整備された緑地面積（※）	10,479.08㎡ (164件)	8,180.34㎡ (138件)		
【参考】遮熱性舗装施工面積累計（区道）	16,104㎡	16,104㎡		

実績

住宅・事業所が設置した緑のカーテンの面積は311㎡となり、前年度と比べて134㎡減少した。また、緑のカーテンモデル設置施設数は33施設となり、前年度と比べて8施設増加した。

評価

ヒートアイランド現象の緩和につながる緑のカーテンの特性が認められつつあるので、更なる普及に努めていく必要があ

進捗状況評価

A
(進捗状況評価区分)
A：順調に計画どおり進行している
B：課題はあるもののほぼ順調に進行している
C：課題が多く、目標達成には困難が予想される

今後の計画

緑のカーテンコンテストや緑のカーテン講習会の実施により、緑のカーテンの設置普及を進めていく。

【重点プロジェクト5】環境体験学習の充実

目的

環境体験学習の機会の充実を図り、区民の環境に関する理解の向上及び環境に配慮した行動を実践できる人材の育成を目的とする。

活動指標

指標	前年度実績値 2020年度 (R2)	最新年度実績値 2021年度 (R3)	中間目標値 2020年度 (R2)	最終目標値 2025年度 (R7)
環境ボランティア（緑と花のサポーター・エコライフサポーター）登録者の実働割合（※）	69% (登録者61名)	68% (登録者60名)	71%	75%
【参考】環境体験学習の参加者数				
・総合学習型 (夏休みプログラム、エコライフ講座)	162名	178名		
・テーマ別型 (水の循環講座、星空観察)	204名	203名		
・自然体験型 (自然観察、森林整備)	168名	162名		
・すみだ環境フェア	(中止)	7,542名		

実績

環境ボランティア登録者の実働割合は、68%となり、前年度と比べて1%減少した。なお、環境ボランティア登録者数は、緑と花のサポーターは46名で前年度から増減無し、エコライフサポーターは14名で前年度から1名減少した。

評価

環境ボランティア登録者の実働割合は、前年度と比べて微減でほぼ横ばいとなっている。令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で一部事業の中止及び事業規模を縮小したことにより参加者数の減少も要因となっているが、イベント等への規制の緩和が行われれば、参加者数やボランティアの実働割合を向上するものと考える。

進捗状況評価

B
(進捗状況評価区分)
A：順調に計画どおり進行している
B：課題はあるもののほぼ順調に進行している
C：課題が多く、目標達成には困難が予想される

今後の計画

環境ボランティア登録者の実働率を指標として設定しているが、そのためにはボランティアの絶対数を増やしていくことが重要であり、ボランティア数を増やす施策により一層取り組んでいく必要がある。実働率の視点については、今後も定期的な評価を継続して行っていく。